ユネスコによるプロジェクト

「ケニアにおける洪水レジリエンスの強化　“Enhancing flood resilience in Kenya”」

ケニアでは 2023 年 10 月から 2024 年 1 月にかけて、エルニーニョ現象に関連した洪水が発生し、50 万人以上が避難を余儀なくされ 186 人が死亡しました。このような洪水に対するレジリエンスを向上させるため、ICHARM はユネスコナイロビ事務所やケニア気象局、水資源局と協力して「ケニアにおける洪水レジリエンスの強化“Enhancing flood resilience in Kenya”」を 2025 年 7 月から開始しました。具体的には、ケニアにおける洪水予測・早期警報システムの開発、洪水被災地図の作成と洪水災害ホットスポットの特定、および現地の実務者向けの能力開発研修を日本とケニアで実施しました。

7 月 2 日には、キックオフとしてインセプションワークショップがナイロビで開催され、関係者間で具体的な活動計画を議論しました。7 月 3 日から 6 日にかけて、対象流域となるタナ川の現地視察を実施し、主要な気象水文観測所の視察やタナ川沿いに居住するコミュニティとの意見交換を行いました。

10 月 27 日から 11 月の約 2 週間、東京大学と協力して日本でファシリテーター研修を実施しました。研修には、分野横断的な取り組みを強化することを目的として、ケニアの気象局、水・衛生・灌漑局、ケニア電力公社、タナ川郡政府から 1 名ずつの専門家を招へいしました。さらに、ユネスコ東アフリカ地域事務所からも講師兼コーディネーターが 1 名参加しました。研修のプログラムは、気象、水文、防災に関する入門講義と試験、ハンズオントレーニング、現地視察、グループワークで構成されました。ハンズオントレーニングでは、予測雨量の活用、水文モデリング、リスクマッピングを実践し、グループワークではケニアにおける専門家トレーニングの実施を想定し、具体的なコンテンツと構成をデザインしました。

さらに、12 月 9 日にはケニアのマリンディにて洪水早期警戒システムに関する専門家トレーニングがユネスコの主催により実施されました。ケニア気象局、水資源省、ケニア電力公社など 16 機関から 38 名が参加し、前述の日本でファシリテーター研修を受けたケニア人専門家が指導を行いました。



写真 1　インセプションワークショップの参加者



写真 2　ファシリテーター研修の参加者と ICHARM 講師陣



写真 3　専門家トレーニングの実践演習



写真 4　修了書授与